松山商科大学　経営学部

大正中期・第一次大戦後の好況時，日本各地で高等専門教育の大拡充が行なわれた．四国4県では官立の高等学校が松山と高知に，高等工業が徳島に，高等商業が高松に設立された．高松と並んで四国の首都を競う松山は高校の他さらに高商の設置を望んだ．いろいろな曲折があったのち，松山出身の財界人，新田長次郎氏の基金寄贈，加藤恒忠松山市長および加藤彰廉大阪高商元校長の努力によって大正12年，松山高等商業学校が設立された．

このプロジェクトは結果において成功した．三実（実用，忠実，真実）の校風を慕って四国，中国，九州さらには関西から人材が集まり，実業界，学界，教育界，自治体，公企業等に活躍するトップから新人までの卒業生は60年間に3万人におよぼうとしている．

昭和24年に松山商科大学となり，勤労者のための夜間短大（昭和27年）経済・経営の2学部の設置(昭和37年)人文学部の設置（昭和49年）法学部設置（昭和63年）と発展の経過をたどり，5000人の集うキャンパスとなった．スポーツは四国の覇者である．大学院は昭和47年に設置され，経済学部・経営学部には博士課程もある．

松山市北部の文教地区にある商大の正門を入ると，連なるいちょう並木越しに化粧レンガの研究棟・図書館がよく映えて六十数年におよぶ伝統を伝えている．研究活動として「松山商大論集」の刊行や，地域経済あるいは特定テーマの受託研究が行なわれている．図書館は42万冊の蔵書をもち，西日本の五指にあげられ，他大学や経済や経済関係機関からの照会も多い．

お隣りの愛媛大学（旧松山高校）とは設立時からの協力関係もあって教員の交流のほか，入学・卒業の式典には国立・私立の壁を越えて祝電を交換し合っている．

松山商大のＯＲの教育は経済学部で，

「統計学総論」；松野五郎

「コンピュータ概論」；光藤昇

の他，「計量経済学」，「経済統計論」（各4単位）の講義もあるが，主に経営学部で行なわれている．

経営学部では既設の経営学，会計学，商学のコースに今年より経営情報学のコースが開設され，経営学，会計学の素養を充分身につけた情報処理技術者の育成を図っている．

約100台のパソコンを使っての実習と5人のスタッフが各々の専門領域を解説する「経営情報総論」が学部の必修となっている．専門課程では，

「経営科学」，「情報処理論」；石田徳孝

「経営工学概論」，「プログラミング」；立田浩之

「生産管理論」，「経営情報システム論」；湊晋平

のほか，「コンピュータ概論」，「経営データ解析」，「品質管理」の講義（いずれも4単位）がある．さらにゼミナール別にコンピュータのより高度な実習，マネージメント・ゲーム等が行なわれている．大学院ではこの特論の講義・演習がある．

この経営情報のコースでは将来，ＡＩ，データベース関係のスタッフの充実を計画しているので会員の皆様のご協力をお願いする．

末筆となったが，昭和64年の春季ＯＲ学会は「海を渡るＯＲ」のテーマで，四国で初めて松山商科大学で開催を予定しているので，多数の会員の皆様のお出でをお待ちします．（湊晋平）

注）人名はＯＲ学会会員

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．